

【概要まとめ】

開催日：令和 7 年 7 月 15 日（火）14:00～15:28

場所：読谷村役場 3 階大会議室

出席：村長、教育長、教育委員、教育委員会事務局、関連課職員等

協議事項：

1. 指導主事の 1 名増員について
2. ICT（GIGA スクール）活用状況について
3. 特別支援教育について

【会議の流れ・要旨】

1. 開会・あいさつ

事務局より、総合教育会議の目的（村長と教育委員会の意見交換の場）を説明。

村長・教育長からも、教育行政の充実に向けた活発な議論を期待する旨の挨拶があった。

2. 協議① 指導主事の 1 名増員について

現行 1 名体制では業務量が過大で、GIGA スクール対応や認定こども園移行など新規業務も増加しているため、1 名増員を検討中との説明。

委員からは以下の意見が出された：

- － 他市町村では 2～3 名体制が多く、読谷村も増員が必要。
 - 指導主事は研修、特別支援、学力向上、GIGA 対応など多岐にわたる業務を担っており、現状は限界。
 - 財政面の課題を踏まえ、会計年度任用職員や専門アドバイザーなどの活用も検討すべき。

村長からは「定員適正化計画の中で総合的に判断したい」とのまとめがあった。

3. 協議② ICT の活用状況について

GIGA スクール構想の進捗や課題について報告。

委員・教育長からは次のような意見が出された：

- － 通信環境が不安定で一斉接続に課題あり。
 - ICT スキルの目標（タイピング・情報活用力など）を明確化すべき。
 - 不登校児童・支援学級へのオンライン学習支援を進めるべき。
 - 各学校の活用状況を「見える化」し、KPI（目標）設定が必要。
 - 機器対応中心の ICT 支援員を「伴走型支援員」として機能強化すべき。
 - 教員の負担軽減・研修充実に ICT 活用を結びつけることが重要。

村長・教育長も「活用指針や評価基準を整備し、次期 GIGA 構想に反映する必要がある」とまとめた。

4. 協議③ 特別支援教育について

読み書きの未定着や授業への集中困難などの課題について報告。

委員からは次の意見が出された：

- 実態（人数・原因）を把握した上で支援策を立てるべき。
 - 指導ではなく「療育的支援」が必要であり、教員への理解促進と研修を強化すべき。
 - 医療的ケアや発達障害対応では、地域の専門人材（福祉・医療職）と連携した体制構築が望ましい。

教育現場での支援の質向上に向け、体制と人材育成の両面での充実が課題とされた。

【まとめ】

本会議では、教育現場の実情を踏まえた 3 つの主要課題——

①指導主事の人員体制強化、②ICT 活用の深化と環境整備、③特別支援教育の質向上——について活発な意見交換が行われた。

村長・教育長は、財政や制度面も含めて総合的に検討を進め、教育行政の充実を図っていく方針を示して閉会した。